

令和8年度入学 一般選抜後期日程 数学 講評

第1問

【出題のねらい】

数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱから、教科書の演習レベルの問題により、基礎力を問うた。

【講評】

問1の恒等式の処理は比較的よくできていた。問2、3は処理しきれていない受験者が散見された。問4の正答者は比較的多く、多くの受験者が微分積分に対して時間をかけてきたことが窺えた。問5の解法については解く順序はさまざまであったが、ある程度の正答がみられた。問題文の条件を活用する解法を、落ち着いて選択できるかで差が分かれた。

第2問

【出題のねらい】

数列、特にシグマ記号への理解と習熟度を問うた。

【講評】

公式をそのまま適用する問題についての出来は良好であった。一方、使える公式の証明・導出方法と同様の形式に沿った計算力については不得手とする受験者が散見された。シグマ記号は大学進学後、現在各大学で「必修化」が進んでいる情報および統計関係の科目を学ぶ上での基本的な理解が必要となるため、基本公式、その導出・証明への習熟を期待したい。

第3問

【出題のねらい】

平面ベクトルの基本問題により、ベクトルや内積の図形への応用力を問うた。

【講評】

ベクトルの基本問題であったが、ベクトルの処理だけの部分についての習得は良好であった。一方、求めるベクトルとその係数を求めるために、連立方程式を立式する技術を苦手とする受験者が散見された。ベクトルの利用や理解にとっては基礎的な技術であるため、演習を通じて確かな理解を求めたい。

第4問

【出題のねらい】

教科書の演習問題レベルの問題により、特に離散型確率変数の基本的な理解を問うた。

【講評】

二項分布に関する基本公式を適用できない受験者が散見された。また、組み合わせ記号を階乗で表示し、処理することに不得手な受験者もみられた。